

皆さんはテレビ番組などで、壁に備え付けた突起物に手や足をかけて登る場面を見たことはありませんか。それがボルタリングというスポーツです。それを見たときに「自分もやってみたい！」と思

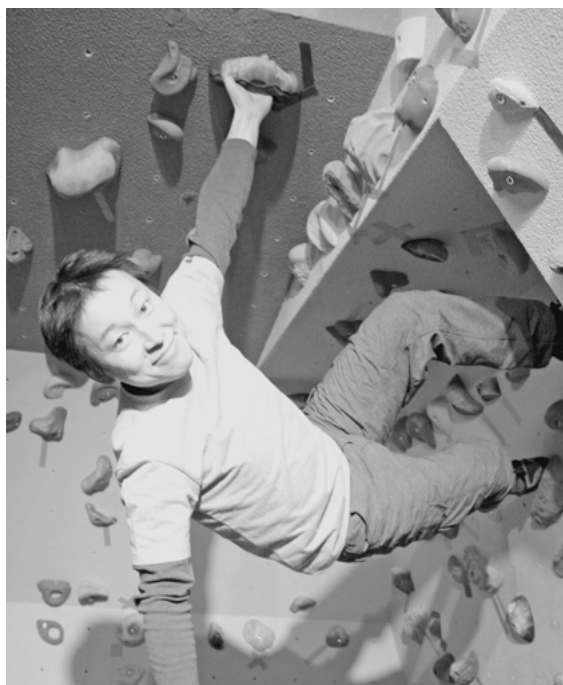
いませんでしたか。

私は、平成24年に埼玉から留萌に戻り家業を手伝っています。久しぶりに留萌に戻って感じたことは、もっとマチに活気がほしいということでした。

## 頂上を目指すチャレンジ精神と達成感が魅力

### ボルタリングで愛好者の輪を広げマチを元気に！

ボルタリングは、フリークライミングの一種で2メートルから4メートル程度の岩や石を命綱（ロープ）を使用せず登るスポーツで、最近では岩や石に見立てた壁面を登る室内施設が主流となっています。市民の皆さんに気軽に楽しんでもらおうと、留萌管内で唯一となる施設を開設した留萌ボルタリングクラブ代表の大沼さんにお話を伺いました。



留萌ボルタリングクラブ  
代表 おおぬま 大沼 だい 大さん



▲ボルタリングは指や足の力だけではなく、バランス感覚も重要

そこで、元々自分が趣味で楽しんでいたボルタリングを生かせるいかと考え、(有)大沼ベニヤ商会2階に施設を開設しました。気軽にボルタリングを体験してほしいと考え、NPO法人留萌体育協会と連携して高校生以上を対象にした体験会を開催したところ、老若男女50人の参加をいただきました。

その後、るもいスポーツクラブ「このゆびとまれ」内に留萌ボルタリングクラブを立ち上げ、現在は20代から50代の会員28人が週2

日、施設の開放日にさわやかな汗を流しています。

開放日であれば見学もできます。競技に性別や体形は関係ありません。興味のある方は、ぜひボルタリングの魅力を体感してください。

ボルタリングは道内でも競技人口が増えているスポーツなので、今後はインストラクターの育成に力を入れるとともに、大人も子どもと一緒に楽しめるようなもっと広い施設を作り、ボルタリング大会を開きたいと考えています。

留萌ボルタリングクラブでは会員を募集しています。一緒にさわやかな汗を流しませんか？お気軽にお問い合わせください。

施設の内容や開放日、利用料金については、<http://ameblo.jp/inks-runoi/>をご覧ください。左記へお問い合わせください。

会についてのお問い合わせ

留萌ボルタリングクラブ(事務局)るもいスポーツクラブ「このゆびとまれ」内

☎ 42・2917

## 毎月書店でお話会や本の出張販売を実施

### 本の魅力と楽しさ伝えて息の長い活動を続けたい

三省堂書店を応援し隊は、市内などに住む主婦6人が中心となつて立ち上げた三省堂書店を呼び隊を前身に、市民の豊かな読書環境確保のため活動を続けています。平成25年10月には、これらの活動が高く評価され、一般財団法人高橋松之助記念顕彰財団の「文字・活字文化推進大賞」を受賞。三省堂書店を応援し隊代表の武良千春さんにお話を伺いました。



三省堂書店を応援し隊  
代表 むら 武良 ちはる 千春さん

支援のおかげだと感謝しています。

しかし、書店の採算性が悪化した場合には撤退もあり得ることから、なんとしても留萌から書店の灯を消さないためにと、三省堂書店を応援し隊と改名し、活動を続けることになりました。

書店の開店当初は、店舗スタッフが少なかつたため、書籍の梱包など運営の手伝いを行ったりしていました。現在は協力してくれる仲間も19人となり、それぞれ時間が許す範囲でともに活動しています。おもな活動として、子どもたちへの「お話会」と大人向けの「朗読会」、市立病院での「本の出張販売」をそれぞれ月に1回。また、2カ月に1回るもいプラザでも



▲三省堂書店を応援し隊に贈られた「文字・活字文化推進大賞」

「本の出張販売」を実施しているほか、書店の周年事業やイベントのお手伝いにも参加しています。「文字・活字文化推進大賞」を受賞したことに最初は戸惑いもありましたが、多くの人の支援によつていただいた賞だと考え、これからの活動の励みにしたいと思います。

1月25日(土)に、ホテルフォート札幌で開かれた北海道教育委員会主催「生きる力をはぐくむ子ども読書活動ネットワークフォーラム」の展示・交流コーナーに出展し、これまでの活動をパネルで紹介するなどの機会に恵まれました。

今後は「子どもたちによる子どもたちへのお話会」などを新たに行い、ひとりでも多くの子どもたちに本の魅力と楽しさを伝えていきたいです。

三省堂書店を応援し隊の「お話会」や「朗読会」などの活動については、左記までお気軽にお問い合わせください。

会についてのお問い合わせ

三省堂書店を応援し隊(事務局)留萌ブックセンター

☎ 43・2255